

序

東日本大震災から10年が経過した令和3年度は、未だ多くの子どもたちが避難先の学校で学習活動が続けるなど、震災に起因する課題が山積しています。さらに、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、学習活動や学校行事等で多くの制約があった年でもありました。

一方で、ICT環境の整備や研修の充実に取り組むとともに、地域コーディネーターの配置による地域課題探究活動の充実を図り、さらには震災の記憶と教訓の継承に向けた体験活動や「語り部」活動を推進するなど、子どもたちにとってより良い教育環境の充実と本県の課題そのものをテーマとした学びの充実に努めてきたところです。

このような中、県教育委員会では、「頑張る学校応援プラン」に掲げた5つの主要施策を推進しました。さらに令和3年12月には本県教育の基本方針となる「第7次福島県総合教育計画」（令和4年度～令和12年度）とその年次計画である「学びの変革推進プラン」を策定するとともに、令和4年1月には魅力ある学校づくりを進めるため、「県立高等学校改革後期実施計画」（令和6年度～令和10年度）を策定しました。福島の良いを大切に「福島ならではの」教育を掲げるとともに、多様な人々との対話や協働を大切にしながら、福島に誇りを持ち、社会や地域を創造できる人材の育成を目指して、「学びの変革」を推進していくことにしました。

さて、本教育年報は、令和3年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後も本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

令和4年12月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。また、敬称は省略しています。